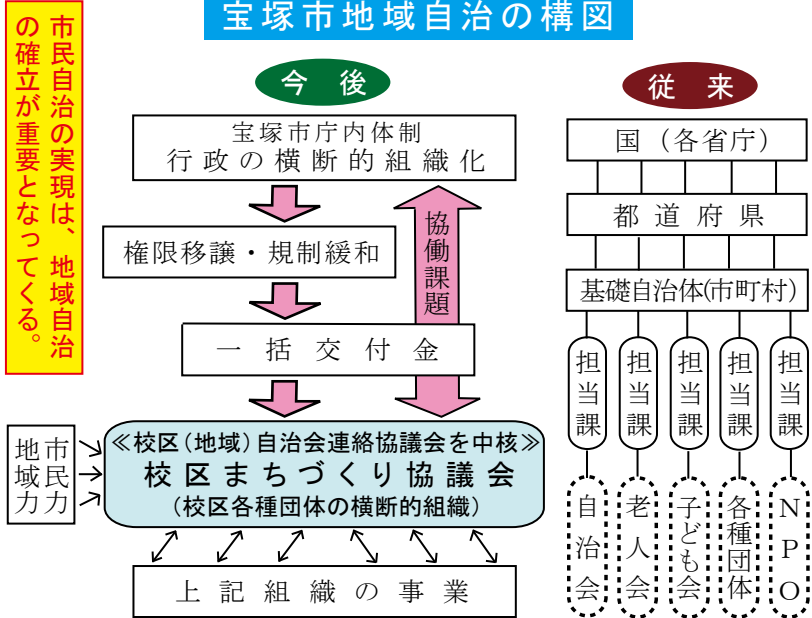


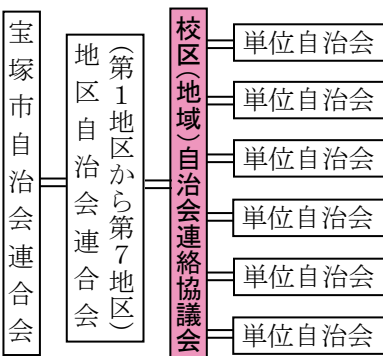
### 宝塚市地域自治の構図



◆ **市民参加条例**  
市民が主体的に市政に参加するための基本的な事項を定めることにより、市民と市が協働し、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現を目指すことを目的とし平成14年4月に制定した条例。

◆ **コミュニティビジネス**  
地域の人々が、地域に眠っている資源(労働力、原材料、技術力など)を活用して行う小規模ビジネスで、利益の追求に加え地域課題の解決をめざすものである。住民が主体となり、地域の資源(人・モノ)を活用しながら、地域にある様々な課題を解決する地域密着型ビジネス。

### 宝塚市自治会連合会の組織



この研修のねらいは、地域自治における自治会の中核としての位置づけを確立するものであった。逆瀬台小学校校区は、宝塚市で唯一の

### 宝塚市第2地区自治会連合会の単位自治会長研修会が開催された

平成22年11月27日(土)宝塚第一、西山、末広、逆瀬台の小学校校区で構成する第2地区の自治会長41名を対象に研修会が開催された。第5次宝塚市総合計画における地域自治の実現に向け「地域自治を目指す校区(地域)自治会連絡協議会の確認と目的・組織・運営等について」のテーマで議論された。

### 用語集・第5次宝塚市総合計画から

◆ **市民自治**  
市民が自分たちのまちの課題について考え、決めて行動すること。地方自治の本旨である「住民自治」の概念に加えて、市民力の強化をめざす。

◆ **地縁型の地域組織**  
市町村内の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された組織。自治会、まちづくり協議会などがこれにあたる。

◆ **まちづくり協議会**  
平成5年(1993年)から、市域を概ね小学校区を単位として分け、自治会を中核に、地域で活躍する団体やグループなどあらゆる人たちとの連携を図りながらまちづくり活動を推進する組織。現在20の協議会がある。

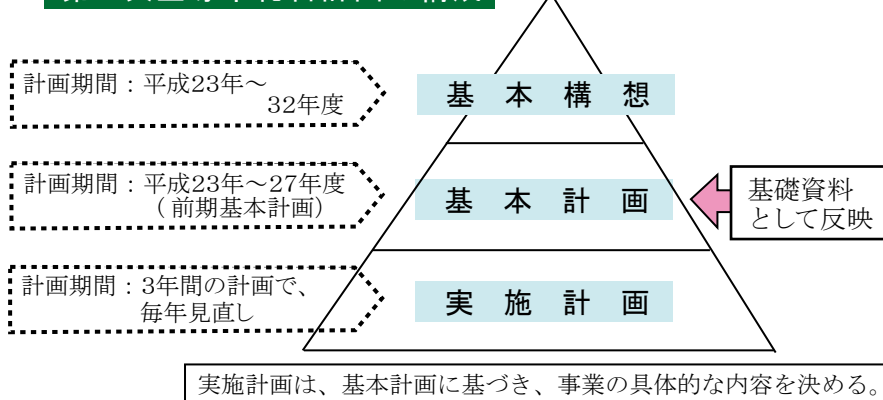
### COP10「生物多様性交流フェア」

外務省事務局からDVDを借入、役員会で上映会

生物多様性に世界が集う会議COP10の開催にあわせ、平成22年10月11日から29日まで「生物多様性交流フェア」が、名古屋市で開催された。このフェアに平成22年10月27日(水)宝塚市自治会連合会と宝塚市環境衛生推進協議会の合同視察研修として実施された。宝塚市職員2名と自治会長39名が参加した。ゆずり葉コミュニティ活動局長でもあり、逆瀬川マンション自治会長の千秋さんが参加され、外務省COP10事務局と交渉しDVDを借入れてきた。DVDは役員会で上映され、COP10及び生物多様性の重要性が地域へ伝わることである。



### 第5次宝塚市総合計画の構成



逆瀬台小学校校区のまちづくり計画は、平成15年12月に行政へ提出し実現を図っていますが、財政難から思うように進んでいません。

### 3 福祉 1面からつづく



22年11月、サロン活動者の交流会を開催しました。その中で「来てほしい人に来てもらえない」「活動の後継者がいない」「自治会館や集会所まで坂が多く、遠いので参加できない」という課題が明らかになりました。またサロンを通じて「知り合いが増えた」「二人暮らしの方の生活の様子が変わり見守りができた」「地域の役員としてサロンのお手伝いするようになった」という自分たちのために活動していることに「気が付いた」という感想なども寄せられ、サロン等の集う場が「一人ひとりが繋がる場」「支えあう場」になっていくことが分かりました。

社会福祉協議会(以下「社協」)や逆瀬川地域包括支援センター(以下「包括」)では、公的な支援に加え、住民同士「繋がり」の場「支えあいの場」を通じて、ご近所での新たな縁・援を作るお手伝いをしていきたいと思っています。

**身近な地域で人と人とのつながりが実感できる取り組みに向けて、社協と包括の支援**

社協・包括では本紙を通じて、地域内の課題を継続的に発信していくとともに下記の支援を行います。

① 社協では、サロン等の集いの場づくり支援、助成金や活動保険等の運営相談に応じます。また地域内の課題から暮らしを支える仕組みづくりについて、住民の皆様と一緒に考える機会を作ります。

連絡先 おばやしよりあひるばひ 電話 74-13690

② 包括では、高齢者の総合相談窓口として、介護保険制度の手続きや生活上での困りごとについて相談に応じます。お元気で過ごしていただくために、介護予防のプログラム(お元気講座)や認知症サポーター養成講座等も開催します。

連絡先 電話 76-12830

### 1面に関連記事

### 「ダンボールコンポスト」の作り方



- コップ神戸の出前講座
- 生ゴミを入れている様子
- ＜材料＞
- ・段ボール 40ℓ程度の大きさ
  - ・ピートモス 15ℓ
  - ・もみがらくん炭 10ℓ
  - ・箱を覆う、虫除け用の布
- ＜作り方＞
- ① 段ボールは、透き間を紙テープでふさぎ(虫の侵入を防ぐため)底は二重にする。
  - ② ピートモス・もみがらくん炭を段ボール箱に入れ、適量の水を加えて軽く混ぜる。
  - ③ これに、生ごみを入れていく。一回に入れる量は500gまでが良い。
  - ④ 梅干しや塩分の多いもの、又は貝殻などの硬い物は避ける。
  - ⑤ 虫除けの布をかぶせ、レンガのブロックなど、台の上に置き通気性を良くする。
  - ⑥ 置き場所は雨の当たらない日当たりの良いところ。室内でも良い。
  - ⑦ 3ヶ月を目安に生ごみを加えるのをやめ、その後2〜3週間熟成させた後、堆肥として使う。
- ＜重要ポイント＞
- ・温度は10度以上
  - ・水分は約60%程度
  - ・生ごみは1cm程度に細かくして入れる。
  - ・よくかき混ぜて空気を入れる。
  - ・箱を布等で覆い虫の侵入を完全に防ぐ。
- コンポストの説明  
売布小学校廊下のコンポスト